

# 「地質情報展 2019 北海道 —明治からつなぐ地質の知恵—」 開催報告

野々垣 進<sup>1)</sup>・斎藤 真<sup>2)</sup>・宮地 良典<sup>3)</sup>・藤原 治<sup>4)</sup>・伊尾木 圭衣<sup>4)</sup>・内野 隆之<sup>1)</sup>・  
昆 慶明<sup>5)</sup>・藤井 孝志<sup>5)</sup>・角井 朝昭<sup>3)</sup>・森田 啓子<sup>2)</sup>・阪口 圭一<sup>2)</sup>

## 1. はじめに

2019年3月29日(金)～31日(日)の3日間、北海道札幌市の北海道立道民活動センター「かでの2・7」において、「地質情報展 2019 北海道—明治からつなぐ地質の知恵—」(主催:産業技術総合研究所 地質調査総合センター・日本地質学会, 共催:北海道立総合研究機構 環境・地質研究本部 地質研究所(以下,それぞれGSJ, 地質学会, 道総研地質研究所))が開催されました。イベント名の「明治から～」は、北海道が1876年(明治9年)に日本の広域地質図が初めて刊行された地であり、明治時代から現在まで日本の地質学の中心地のひとつとなってきたこと由来します。

地質情報展は、毎年9月に日本地質学会学術大会の開催地と同じ都市で、地質について国民に広く知ってもらうために催すイベントです。本イベントでは、開催地の地質に関する解説パネルや岩石・化石標本の展示、各種体験コーナーなどが設けられ、子供からシニアまで楽しみながら“地質”について学べます。第22回目となる今回は、当初2018年9月7日(金)～9日(日)に開催予定でしたが、9月6日(木)未明に発生した平成30年北海道胆振東部地震(以下、胆振地震)の影響により一度は中止となりました。しかし、再開を期待する地元からの声や、今こそ地質の研究が社会に役立つ時だと言うGSJの強い意志もあって2019年3月に改めて開催するに至りました。開催に必要な資金の一部はクラウドファンディング(academist, 2018)によって多くの方から支援を頂きました。開催期間中は厳しい寒さにもかかわらず、29日(金)が200名、30日(土)が555名、31日(日)が477名と、3日間を通して1,232名の方にご来場いただけました。ここでは、企画運営委員会が代表して、本イベントについて簡単に報告したいと思います。



写真1 開会式のテープカットの様子。左から高橋哲哉所長(道総研地質研究所)、松田博貴会長(地質学会)、矢野雄策代表(GSJ)、金子哲俊部長(HTB北海道放送株式会社)、渡辺彰彦副理事長(北海道地質調査業協会)。

## 2. 開会式

地質情報展の開始時間は各日10時からでしたが、初日の3月29日(土)には、これに先立って開会式が催されました。開会式では、GSJの矢野雄策代表、地質学会の松田博貴会長、および、道総研地質研究所の高橋徹哉所長の御三方から挨拶があり、その後テープカットが行われました。テープカットには、ご列席いただいた北海道地質調査業協会の渡辺彰彦副理事長とHTB北海道テレビ放送株式会社の金子哲俊部長にも加わっていただきました(写真1)。

## 3. 展示コーナー

展示コーナーでは、北海道の地質やその成り立ちをはじめ、火山、活断層、地震、津波、鉱物資源、地熱・地中熱、ジオパーク等に関する解説パネルを展示したほか、地質ジ

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門  
2) 産総研 地質調査総合センター 研究戦略部  
3) 産総研 地質調査総合センター 地質情報基盤センター  
4) 産総研 地質調査総合センター 活断層・火山研究部門  
5) 産総研 地質調査総合センター 地圏資源環境研究部門

キーワード: 地質情報展, 北海道, 明治

オラマ模型や断層模型、地中熱模型等、各種模型も展示しました。さらに、北海道で産出したさまざまな種類の岩石・鉱物・化石標本を展示しました。これらの標本展示はどれも好評でしたが、その中でも大型アンモナイト化石は、実際に触って観察できるということもあり、子ども達の興味を特に惹いていました。

開催地にちなむ展示では、地質情報展で恒例になっている巨大床貼り地質図(写真2)に加え、札幌市で発掘された大型セミクジラ科化石のレプリカ(写真3)と、9月に発生した胆振地震に関する解説パネルを展示しました(写真4)。クジラのレプリカは、展示した頭部付近の骨格(幅約2 m、長さ約1 m)のみでも迫力あるものでしたが、実際のクジラの大きさ(全長約15 m)を体感していただけるように床にテープで推定されるクジラの外形を示しました。会場の2階、3階の廊下から見下ろすとクジラの全景が分かるという工夫です。胆振地震については、道総研地質研究所の연구원の方々のご協力を得て、現地調査で撮影された写真を多数掲載したパネルを展示するとともに、実際に調査を行った연구원の方々にご説明をいただきました。



写真2 特別展示「北海道の巨大床貼り地質図」。



写真3 特別展示「大型セミクジラ科化石のレプリカ」。

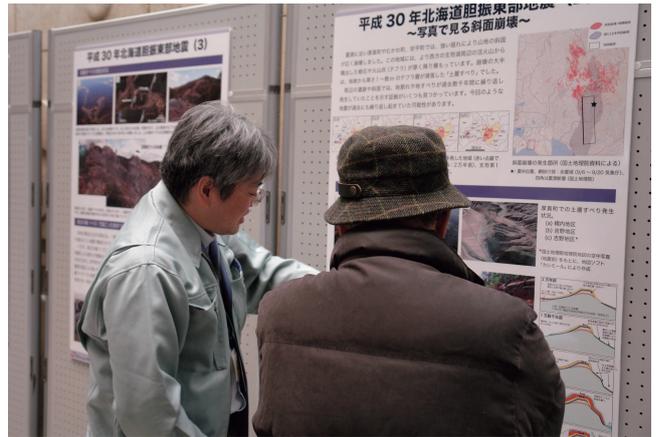


写真4 特別展示「平成30年北海道胆振東部地震」。

胆振地方では本イベントを開催する約1ヶ月前の2019年2月にも比較的規模の大きい地震があったためか、このパネル展示への関心は高かったように思われます。なお、今回展示した解説パネルのうち、一部については、GSJウェブサイト上で閲覧可能となっています(清水ほか, 2019)。

#### 4. 体験コーナー

例年同様、展示コーナーと並行して、多数の体験コーナーを設けました。今回設けた体験コーナーは次の通りです。

- ・化石レプリカ作製
- ・メタンハイドレート燃焼実演
- ・火山噴火実験
- ・岩石破壊実験
- ・水路堆積実験
- ・地盤の揺れ実験
- ・マンガン団塊採取体験
- ・鉱物採取体験
- ・紙コップ偏光顕微鏡作製
- ・地質ぬり絵

このうち、鉱物採取体験は地質情報展には初登場、メタンハイドレート燃焼実演は約10年ぶりの登場となります(本号で紹介)。メタンハイドレート燃焼実演では、日常生活では出会うことのない“燃える氷”を見られるとあって、毎回実演時間になると大きな人だかりができていました。また化石レプリカ作製では、毎日開場前に多数の親子が整理券を求めて並ぶ盛況ぶりでした。その他の体験コーナーについても、実際に自分の手で実験を行えるものが多いこともあり、子どもから大人まで幅広い世代に楽しんでいたように思います(写真5, 写真6)。



写真5 体験コーナー「メタンハイドレート燃焼実演」の様子。



写真6 体験コーナー「鉱物採取体験」の様子。

## 5. スタンプラリー

地質情報展では恒例となっているスタンプラリーも実施しました。会場に設置した「ちしつず」や「かざん」など7種類のスタンプを集めると完成です。スタンプラリー達成者への今回の景品は、次の通りです。

- ・北海道産の岩石3種(釧路の石炭, 幌満のかんらん岩, 白滝の黒曜岩)
- ・洞爺湖有珠山ジオパークの缶バッジ(4色)
- ・白滝ジオパークのジオカード
- ・北海道の立体地質図(赤色青色メガネ版)
- ・立体視カード(赤色青色メガネ版, プリズムメガネ版)

岩石3種のうち、特にかんらん岩と黒曜岩については大人にも人気が高く、各日とも準備していた岩石があっという間になくなってしまいました。スタンプラリー交換所では、スタンプを押し終えた台紙を抱えて、真剣な目で景品を選ぶ子ども達の様子がとても印象的でした。

## 6. おわりに

今回の地質情報展は、地質学会学術大会と同時開催ではないことや、時期が年度末であること等から、来場者数が伸びないのではないかとという心配がありました。しかし、蓋を開けてみると、複数のメディアで取り上げられたこともあり、上述のように盛況のうちに終わることができました。さらに、来場者の皆様からは「とても楽しかった」、「説明がわかりやすかった」、「是非また開催して欲しい」等、ありがたいコメントを多数いただきました。このような結果を得られたのは、周到な準備と丁寧な当日対応をしていただいた関係者の皆様、またご来場いただいた皆様のおかげだと思います。これからも、このような楽しみながら地質に触れ合うイベントを継続していくことで、地質の研究をより知っていただき、社会の中で生かしていくことを期待します。これからも皆様からの変わらぬご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。

次回の地質情報展は、2019年9月21日(土)～23日(月・祝)に山口大学吉田キャンパスでの開催を予定しています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

**謝辞：**本イベントの開催にあたり、経済産業省北海道経済産業局、北海道大学、北海道教育委員会、札幌市、札幌市教育委員会、NHK札幌放送局、HBC北海道放送、STV札幌テレビ放送、HTB北海道テレビ、UHB北海道文化放送、TVhテレビ北海道、STVラジオ、北海道新聞社、全国地質調査業協会連合会、北海道地質調査業協会、日本ジオパークネットワークには、ご後援いただきました。また、大型セミクジラ科化石のレプリカの展示では、札幌市博物館活動センターにご協力いただきました。記して感謝の意を表します。

## 文 献

academist (2018) 北海道地震で中止となった「地質情報展」を実現したい！. <https://academist-cf.com/projects/89> (平成31年4月10日確認)

清水 恵・川畑 晶・野々垣進・斎藤 眞・森田啓子 (2019) 地質情報展 北海道—明治からつなぐ地質の知恵—. 地質調査総合センター 研究関連普及出版物, no.141.

NONOGAKI Susumu, SAITO Makoto, MIYACHI Yoshinori, FUJIWARA Osamu, IOKI Kei, UCHINO Takayuki, KON Yoshiaki, FUJII Takashi, SUMII Tomoaki, MORITA Keiko and SAKAGUCHI Keichi (2019) Report on Geoscience Exhibition in Hokkaido 2019.

(受付:2019年4月11日)